

徳川みらい学会設立総会・講演会

徳川みらい学会が発足

「徳川みらい学会」の設立総会を、4月18日、静岡市民文化会館で開催しました。家康公四百年祭に合わせて、当会議所が中心となつて本学会を設立しました。総会には会員ら800名が参加。設立発起人代表の後藤康雄会頭が「家康公ゆかりの地である静岡に住む市民に、徳川時代の素晴らしさを知ってもらいたい」と挨拶しました。

徳川みらい学会の目的

世界史上例をみない265年にも及ぶ平和な時代を築いた徳川家康公が薨去されてから、まもなく400年を迎えます。「徳川時代」の我が国は、「軍縮革命を実現した平和国家」で



「究極の循環型社会」、また「高度で洗練された文化の成熟期」でもありました。そしてこれらの礎を築いたのが駿府大御所時代の10年といわれています。この「徳川時代」を改めて研究し、その知恵や歴史的意義を静岡の地から未来の日本、そして世界へと発信していきます。

第1回講演会テーマは「家康公への思い」

徳川みらい学会では今年度6回の講演会を開催します。総会後に開催した第1回講演会ではアドバイザーをお願いしている6名の先生方が登壇し、「家康公への思い」をテーマにトークセッションを行いました。また、当日出席できなかったアドバイザーの熊倉功夫氏からはビデオレターをいただきましたので紹介します。



静岡産業大学総合研究所 客員研究員
中村羊一郎氏

「伝承や物語というものから、家康公がどういう存在であったのか浮かび上がらせたい。徳川時代は、家康公に対するある種特別な思慕が、民衆の間に造成されていくことで安定した社会ができていったと思います。」



静岡県立美術館 館長
芳賀 徹氏

「徳川時代を一言で表現してみよと言われたら、18世紀後半の与謝蕪村の俳句を挙げます。「うづみ火や終には煮ゆる鍋のもの（火鉢の炭は灰にうずまっっている。その上にかけてある小さな鍋はいつ煮えるとも分からないが、まあそのうち煮えるだろう。）」まさにこれは低成長・低消費でこそ本当の文明の生活ができることを物語っています。」



静岡大学 名誉教授
小和田哲男氏

「家康公の功績の一つとして、江戸に幕府を開いたことがあります。それまで政治経済の中心だった京都や大坂（阪）の機能を江戸に移す事で、東海道および東国を飛躍的に発展させています。」



静岡大学 名誉教授
本多隆成氏

「家康公は天下人になるまでに随分長い間の隠忍自重的生活が続きました。その経験があったからこそ、徳川体制を万全なものまで持てつけたのだと思います。」



東京藝術大学大学院 教授
藪内佐斗司氏

「現在において私は仏像の修理をやっていますが、調べてみると江戸期の元禄年間に仏像の修理が多かったです。これは、それまで貴族



静岡文化芸術大学 准教授
磯田道史氏

や武家が行っていた修理が、庶民階級にまで広がった為であり、庶民が生活的に豊かになっていった証ということなのです。」

「馬上で取った天下は馬上のまま治められないことを知っていた家康公は、天下を治めた時に、今までと全く違う視点をもつて行動に移しました。この懐の大きさに興味を持っています。」



静岡文化芸術大学 学長
熊倉功夫氏

ビデオレター
「徳川時代はちょうど近代日本の歩みとよく似たところがあります。素晴らしい文化が徳川時代の低成長の中でどうしてできたのか、もう一度振り返ってみる必要があると思います。その秘密を解き明かし、今後の日本に当てはめることを徳川みらい学会に期待しています。」

個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈問い合わせ〉徳川みらい学会事務局 〈TEL〉284-9660 〈HP〉[徳川みらい学会](#) [検索](#)